わくわく本だな

2024年
１月号

１ ２ ３ 年

E『 ウサギのソロモン、
へんしんする 』

ウィリアム・スタイグ
／作・絵
さくまゆみこ／訳
徳間書店

ソロモンは、いつでもさびたクギにへんしんすることができます。ある日チョウチョウをつかまえていると、おそろしい声が聞こえてきました。ソロモンの後ろに、ナイフを持ったネコがいたのです。ソロモンは走ってにげると、クギにへんしんしました。ところが、へんしんに気がついたネコは、クギになったソロモンをポケットに入れて、家に帰ってしまいます。

K913『 ななちゃんのたからもの 』

小手鞠るい／作
すずきみほ／絵
岩崎書店

本が大すきなきくの。「本のほかに友だちなんて、いなくてもへいき」と思っているけれど、本当はちょっとさびしい気持ちもありました。ある時、アメリカにいるおばあちゃん、「ななちゃん」に会いに行くことになります。ななちゃんは、きくのに森の友だちの小鳥や、うさぎをしょうかいしてくれました。きくのはゆうきを出して、うさぎのみみちゃんに話しかけてみます。

K913『 やっぱり犬がほしい 』

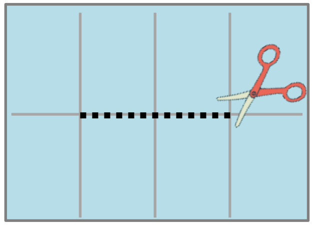
スギヤマカナヨ／作
アリス館

ぼくの家には、パルという名前の犬がいます。パルは、ぼくたちの家族の一員です。パルをかうとき、ぼくはお父さんとお母さんといろんなやくそくをしました。やくそくを守ることはたいへんだけど、パルといっしょにすごす毎日は、楽しくて、すてきです。けれども、ぼくとパルの時間は、同じではありませんでした。パルは、ぼくよりもずっと早く年を取っていくのです。

E『 リスのエビフライ探検帳
マツボックリの大変身！ 』

飯田猛／著
技術評論社

お皿の上に、エビフライがのっています。とてもおいしそうですが、これらは本物ではありません。森にくらすリスがかじったマツボックリが、エビフライそっくりの形になったのです。この本では、リスがエビフライを作る様子をしょうかいします。



紙を８つにおって、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみたてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行　富山市立図書館
富山市西町５番１号
電話　076-461-3200
＜ホームページもみてね！＞

わくわく本だな

2024年
1月号

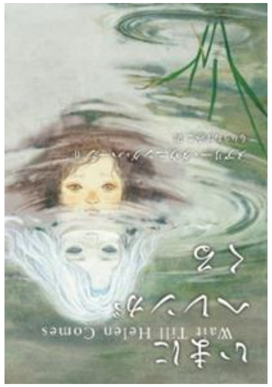
４５６年

K913『 ひみつだけど、話します 』

堀川理万子／作・絵
あかね書房

電車が好きな足立くんには、ひみつがあります。それは、目玉を動かしていると、電車が止まったように見えて、乗っている人がはっきりと見えることです。いつものように電車を見ていると、通りかかった同級生の小川さんに、「なにしてるの？」と声をかけられました。足立くんは、小川さんにだけひみつを教えてあげることにします。

一方で、ひみつを教えてもらった小川さんにも、ひみつがあるようです。



K933『 いまにヘレンがくる 』

メアリー・ダウニング・ハーン／作
もりうちすみこ／訳
偕成社

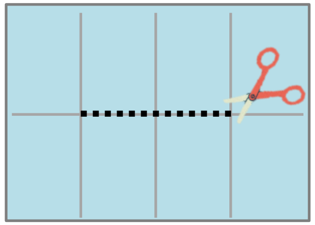
モリーは、母の再こんで田舎の教会へ引っこしてきました。新しくヘザーという妹ができましたが、ヘザーはいじわるばかりして、モリーたちを受け入れません。そんなある日、モリーは教会の墓地で、ヘザーがヘレンと名のるゆうれいと話しているのを見つけました。ヘザーの身に危険がせまっていることを感じたモリーは、「ヘレンに近づいてはいけない」と言いますが、ヘザーは何度もヘレンに会いに行きます。モリーはヘザーを救うため、ヘレンにひとりで立ち向かうことを決めました。

E『 すごい!ミミックメーカー
生き物をヒントに世界を変えた
発明家たち 』

竹内薫／監修
クリステン・ノードストロム／文
ポール・ボストン／絵
西村書店

ミミックメーカーとは、生き物の優れたところをまねして、便利な発明品を作る人のことです。この本には、10人のミミックメーカーが登場します。

新幹線の開発責任者である仲津英治は、そのひとりです。英治は、バードウォッチングで見たカワセミを参考にして、新幹線を新しくデザインしました。列車の先頭をカワセミのくちばしのようにとがらせることで、静かに、速く走ることが可能になったのです。



紙を８つにおって、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみたてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行　富山市立図書館
富山市西町５番１号
電話　076-461-3200
＜ホームページもみてね！＞